

『まだまだです』 秀歌抄出二十首

※選考委員による抄出

夢の中の登場人物全員が日本語になった来日五年目

空にいる古い木にいる川にいるニッポンの神 アンニョンハセヨ

ゼミ終わり目が赤くなって立ち止まる湿度の高い日本に来て

一ページ読み終わるのに一時間ルビだらけになる『日韓関係史』

牛丼を割り箸で食べる人々の横でスプーンくださいと言う

東京はエレベーターでも電車でも横目でモノを見る人の街

日本語の「行けたら行く」は「待たないで」の意味だったのか 飴を舐めつつ

「竹島」と「靖国神社」を聞くごとに水を飲んでも止まらぬしゃっくり

名も知らぬおじさんたちと肩並べかき揚げそばを立ちつつする

らつきようもオクラもみようがも君に会い初めて食べた薄暑の野菜

殴り合うだけの世界に差別などないと在日のボクサーは言う

「すみませんブックカバーをお願いします』『社会を変えるには』という本

マグカップ両手で持って飲むわれにイルボンぽいと友がまた言う

(イルボン…日本人)

「ああ疲れた」バスタブの中で呟いた独り言まで日本語になり

ビル街に日がな一日雪が舞い　ねえママ、生まれてくれてありがとう

横に並び母と餃子を包みつつ何も聞かず何も聞かれず

書き溜めた十年前の日記には雪の結晶のような文字たち

一階にあるファミマでは白い手も黒い手もみなおにぎりを取る

牛丼にサラダをつける「わたし女ですから」というような顔して

花の粉がマスクの中に入ってきて鼻をくすぐる笑いなさいと

一枚ずつラッピングして食パンを凍らせる日は結婚がしたい

交配ができず一世で終わるらしい 慎ましい顔のソメイヨシノは

ソウルだと只のおかずが渋谷では千円を超すナムル盛り合わせ

日本語の発音のままハングルで記すノートは誰も読めない

「日本語が上手ですね」と言われると「まだまだです」が口癖になり

銀座線で揺られた未練を乗り換えの南北線に引きずるなんて

母国から非難を浴びて辛いよねと日本の友が先に泣き出す

ソウルでも左側通行してしまうこの体まで日本に馴染む

「持っていく?」ゴム手袋がつかみだすキムチ一本持ち上げて母は

二千字の論文よりも三十一字に時間を取られて月満ちてくる